

沼男①

① 村から町へ通じる沼ぞいの道を、町の中学校へ通うユミ子と秋江が学校がえりに通りかかりました。「バスにのりおくれてとうとうあるいてしまったわ。もうすぐ村よ」

② 「ヤオー」ふたりめがけてそばの丘の上からとびおりてくる異様な男。「あーツ、たいへんだれか来てー」

③ 「ゲゲゲ、来い：沼の神様がおよびだ」あやしい男は秋江をつかまえました。「助けてー」と秋江はにげようともがきます。

④ ユミ子の方は怪人が出たのでおどろいて「助けてー」とにげだしました。ムチュウで走つていくと、丁度村の駐在の古田巡査と、青年会長の

⑤ 高山が来ましたので「たいへんです、秋江さんが、秋江さんが」「どうしたんだ。あーん、えッ、怪人が丘の上からとびおりてきて秋江さんを。それはたいへんだ」

⑥ ユミ子に案内されて二人が来てみると、怪人のすがたも秋江も見えません。「あ、あんなどころにカバンがおちている」「ウム、沼へいく道の草がふみしだかれているぞ」

⑦ 「やつ、こつちの方へ秋江さんはつれこまれたらしい。おーい、秋江さん」「あ、あれは秋江さんのネツカチーフとクツです」三人はだんだん沼の岸へ近づきました。来てみると

⑧ 「あ：人が」「秋江さんです」「たいへんだ。高山君、早く秋江さんをひき上げよう」半身を沼にしづめられている秋江を

⑨ 高山と古田巡査はひきあげてみましたが、すでにつめたくなつていて生きかえらせることはできません。「秋江さん…」とユミ子は死がいにとりすがつて泣き出しました。すると「ゲゲゲゲゲー」

⑩ 「あッ何やつ」「あ：あいつです人ころしです」「ゲゲゲゲゲ、オレは沼男だ」。ゲゲゲ「ゲゲー」高い木の上で三人をあざ笑う殺人鬼の沼男…果して…